

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元

株式会社福岡放送

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	<p>○ブロードバンドワイヤレスシステムとしてのデジタル放送の重要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年7月に総務省「電波政策懇談会」が策定した報告書「電波新産業創出戦略」では、デジタル放送はブロードバンドモバイル、衛星システムと共に代表される主要無線メディアとして「2010年代の電波利用システム・サービスの将来像」の中で「ブロードバンドワイヤレスシステム」と位置付けられている。これは、周波数利用の観点から「ブロードワイヤレスシステム」を広帯域伝送の主要無線システム全般と捉えられたものと理解する。 ・デジタル放送は、その特徴を生かして高品位で多彩なコンテンツを輻輳なく伝送するとともに、ブロードバンドモバイル等と連携するメディアとして、国民生活において、ますます重要な役割を担うことが期待されている。弊社は、引き続き周波数利用の責任を果たし、その期待に応えていく所存である。
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化、研究開発の推進、利用環境の整備）	<p>○トラヒック増大に対応するワイヤレスブロードバンド環境整備のための研究開発の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤレスブロードバンド環境整備は、国民生活を豊かにする観点から重要である。ユーザーニーズの高度化に伴う超高速・大容量化に伴うトラヒックは増大の傾向にある。ワイヤレスブロードバンド向け周波数の確保にあたり、伝送技術や利活用技術を含めた周波数有効利用に寄与する研究開発をより一層推進すべきである。 <p>○3.4～3.6GHz帯へのIMT導入を中心としたブロードバンドモバイルの高度化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送事業者は、「周波数再編アクションプラン」にも示されているとおり電波政策に沿って、IMT（International Mobile Telecommunications）の早期導入を可能とするため、3.4～3.6GHz帯で使用している固定局等を別のマイクロ波帯に移行する計画を進めており、さらに、「周波数割当計画」においては、3.456～3.6GHz帯の放送事業用固定局の使用期限は平成24年11月30日と規定されており、3.4～3.456GHz帯についても移行計画を詰めている。 ・従って、今後新規に開設される方式や事業は、周波数アクションプランに示されている3.4～3.6GHz帯の周波数を主として計画が行われるべきである。
(3) 関連する国内外の動向と課	○ 730～770MHzの早期活用について

<p>題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地上テレビジョン放送のデジタル化に伴い創出した空き周波数である730～770MHzの利用に関しては、携帯電話等の移動通信に割当てる方針が情報通信審議会・情報通信技術分科会から平成19年に答申されている。 ・平成24年7月以降、同答申の方針に沿って、隣接周波数帯にある各種無線システムとの共用条件など、所要の技術検討を早急に進め、速やかに同帯域を活用すべきである。
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	<p>○ UHF帯の周波数割当について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤレスブロードバンドの環境整備においては、国民の安心安全な生活や豊かな生活に寄与している観点では、携帯電話のみならず「放送」もその一環として考えられる。そのためには、リッチなコンテンツを国民(視聴者)に提供するために、UHF帯の番組素材無線伝送システムの充実とこれらの維持・発展に十分な配慮を望むものである。 ・UHF帯において、放送関係では800MHz帯FPUや特定ラジオマイクなどが、この周波数の電波伝搬特性を活かして重要な伝送手段として運用されている。特に800MHz帯FPUは、その周波数特性から見通し外伝送や移動体からの伝送などに適しており、大変重要なシステムとなっている。 ・放送業務用の800MHz帯FPU(770～806MHz)はテレビ素材伝送を行う無線システムであるが、特定ラジオマイク/デジタル特定ラジオマイクと周波数を共用しており、それぞれの地域において組織的な運用調整を行い、相互の干渉妨害を未然に防ぐことで、周波数の有効利用を図っている。 ・800MHz帯FPUや特定ラジオマイクは、携帯電話や無線LAN等のブロードバンドモバイルと比較すると無線局数や市場規模は小さいかもしれないが、報道や番組制作で欠かせぬ重要なツールであり、その社会的役割は決して小さいものではない。 ・800MHz帯FPUの現行方式はSDTV伝送が主であり、HDTV画質の伝送は困難な状況であるが、総務省の委託事業(平成18年度～21年度)により、HDTV伝送が可能となる研究開発が完了しており、この新方式について、早期の制度整備を強く要望する。